

2020年度活動報告・2021年度活動方針

2020年度活動報告

新型コロナの発生で、従来行われてきたアースデイやグローバルフェスタなどのイベントが開かれなかったことから、現在できることとして、①オイコクレジットの広報機会を活用し、② 独自のオンラインイベントや Facebook などの広報に力を入れて、新しい広報スタイルを確立してきたと言える。こうした努力が、コロナ禍でも追加出資や新規出資に繋がったと言えよう。

また、③経費は例年より大幅に減らせた。

1. 組合員数と出資実績 (2021年3月末)

組合員 113 名 出資額 42,104,500 円

2. 日本における認知度向上と出資拡大に向けて行ってきた活動

(1) ホームページを充実させるために、オイコクレジットの新しい記事を抜粋して掲載するようしてきた。既存の会員と関係を持たず、ホームページだけを見て出資を決めた新規会員を今年も得た。

(2) Facebook を活用して、広報の幅を広げた。

オイコクレジットの活動内容を、毎月投稿し、オイコクレジット・ジャパン HP へ誘導し、活動に関わるきっかけを広く提供した。

Facebook を見てオイコクレジット・ジャパンの活動に関わりたいという学生も。

(3) イベント出展、セミナー、ワークショップ

コロナ禍のため、イベントの出店、外部でのセミナー・ワークショップなどの活動ができなかった。そのため、オイコクレジットの世界各地での活動を紹介するデジタル発信に力をいれ、ウェビナー開催を行った。

・オンライン学習会 Zoom

10月31日 マイクロファイナンス機関への支援について

11月29日 自然エネルギー開発やオフグリッドでの電力供給について

2月5日 なぜ今も、農業への支援が重要かについて

毎回会員およびその知人など、10名前後の参加者があり、活発な議論が繰り広げられた。

・岡本真理子代表講演 (ウェビナー)

オイコクレジット・ジャパンの代表として講演し、啓蒙・広報活動を行った。

12月9日 国際協力・岐阜 DDC 主催 マイクロファイナンスについて

2月18日 ソリダリダード・ジャパン&ジゾ研主催、社会的インパクト投資について

(4) 関西 NGO 協議会・真如苑の助成金に応募するも、採用に至らず。

(5) 関西 NGO 協議会出版の「関西 SGD's の歩き方」の冊子作成に、記事で協力。

3. 組織的性格の変更

2019年7月の総会にて、社団法人にすることに決定したが、定款の見直しで、一旦保留。昨年総会では費用への懸念、理事体制の形式変更で、進んでいない。

4. Oikocredit への出資は9月12月の2度であったが、出資者への出資状況の報告は、合わせて1度行った。

5. 7月4日、初めてオンライン総会を実施した。従来参加できなかった人が参加できた。

6. ハチドリ電力と協定。昨年総会時および9月に会員にハチドリへの変更を呼びかけたお蔭で、目標世帯数を達成し、ハチドリの HP からオイコクレジットへの寄付を選択できるようになった。

7. 組織運営では、運営委員会を2か月に一度のペースで開き、組織内での情報共有や議論と合意を図ってきた。また、広報については、翻訳記事作成担当、HP 担当、facebook 担当の連携が軌道に乗ってきた。

2021年度活動方針

コロナ禍は高齢者へのワクチン後も引きずる可能性があり、大きなイベント開催が期待できないし、予算の制約もある。従って、オイコクレジットの役割、機能、つまりは社会的投資団体として、SGDs に不可欠な存在であることへの理解を広げていく。それが結局は追加出資や新規獲得に結び付く。そのためのきっかけづくりを行っていく。

1) オンライン学習会 (以下のようなテーマで)

- ① オイコクレジットと SDGs
- ② オイコクレジットの投資基準と倫理的投資
- ③ オイコクレジットがなぜ協同組合を重視するか

2) 大学などでのイベントへの協力や、学園祭などでの出展応援など。

3) 社団法人化

現在180万の投資外会計残高で、当分配当ゼロの可能性あり、実施を送らせていたが、Oikocredit International からはリマインドあり、資金の手立てを、組合員出資金の中の「オイコクレジット・ジャパン」名義（退会時に「寄付」として処理されたもの約112万円）から取り崩して対応することにする。また、理事と運営委員会の2段構えにする。

以上